



PLACE

蜂前神社

今もなお残る、徳政令発布の舞台となった祝田村の神社

蜂前神社の神主・祝田彌直と小野政次が徳政令の発令をすすめるが、直虎はそれを約2年間凍結したとされている。その舞台となった祝田村は今でも名を残す地域であり、蜂前神社も現存。応神天皇の時代に、八田毛止恵が勅命によって遠江国に下向し123町余りを開墾し、八ヶ前の地に本社勧請したのが始まりだといわれる。

直虎の花押が記された唯一の古文書「井伊直虎関口氏経違書状」が所蔵されている。当時、花押は身分のある男性が用いるものであったことから、直虎が男性として振舞っていた事がわかる貴重な史料となっている。また蜂前神社には、小野但馬守を「小但」と記した文書も残っている。

※浜松市文化遺産デジタルアーカイブで見られる。

DATA 浜松市北区細江町中川6915
交 / JR浜松駅「奥山」「伊平」「金指 気賀」行きバス
「祝田南」バス停下車徒歩約5分



蜂前神社のある祝田村は、直虎殿が住んでいた村じゃ！

「祝田郷徳政の事、去る寛年、御判形を以て仰せつけられ候といえども、銭主方難洗せしめ、未だに落着なきについて、本百姓訴訟せしむるの条、先の御判形の旨に任じて申しつくるところなり。前々の節目を以て名職等之を請け取るべく、たとえ銭主方重ねて訴訟全るといえども、許容すべからざるもの也。よって件の如し」と記載されている。



蜂前神社蔵・博物館寄託

小野政次の足跡



龍潭寺

数ある井伊家家臣のお墓の中でも、存在感の大きい小野家墓所

龍潭寺には小野家代々のお墓があり、ほかの家臣よりも広いスペースで供養されている。このことから、小野家が井伊家にとって重要な家柄であったことが分かる。



二宮神社

政次の想いを鎮め、祭神として祀った場所

もとは井伊郷を納めていた三宅氏が祖神である多道間守を祀り、三宅神社と称していたと言われている。その後、醍醐天皇の皇子・宗良親王を合祀。二柱の神を祀ることとなり、二宮神社と改称されたという。境内の案内などには、井伊家の家紋とされる井桁に橘の紋が見られる。江戸時代に入り、井伊家が彦根に移ったあと、二宮神社の神主である中井氏が、政次を祭神とした但馬社を建てて供養したと伝えられている。現在、拝殿横の天王社に合祀されている。

DATA 浜松市北区引佐町井伊谷306
交 / 「渋川」行きバス約60分「上町」下車、徒歩約5分

PICK UP 竜ヶ岩洞

全長1,000メートル(観光ルートは400メートル)、約2億5000万年前にできた鍾乳洞で、その大きさは東海地方最大級。洞窟内はさまざまな形をした鍾乳石で神秘に満ち溢れており、1年を通して18度と快適空間。洞窟内の観賞ポイントは50カ所もあり、なかでも30メートル落下する大滝はダイナミックで感動を与えてくれる。



当時、竜ヶ岩洞があったとしたら、政次はここに逃げ隠れていたかも知れないの？

DATA 浜松市北区引佐田畑193 時/9:00~17:00
料/大人・高校生1,000円、小中学生600円 休/無休

HISTORY

井伊家発展に心血を注いだ筆頭家老

井伊谷を治める井伊直盛の家老を務めた父・政直の後を継ぎ、井伊家筆頭家老となる小野政次(小野道好・小野但馬守とも呼ばれる)。直盛が桶狭間の戦いで討死、さらには後継者候補であった中野直由も引聞城攻撃の際に討死してしまう。そのような状況の下、今川家からの強大な圧力を受けながらも、井伊の女城主となった直虎と井伊谷を守っていくことになる。常に高いアンテナを持つ小野家は、井伊家の筆頭家老として城主のかけがえのない相談相手となり、井伊家を守り、存続させてきた。

永禄11年(1568年)、武田信玄が今川氏の本拠・駿河に侵攻。その際、政次は今川氏真より「井伊の実権を掌握し加勢せよ」と命じられ、虎松や直虎、祐椿尼は籠澤寺に避難、政次が井伊を横領したとされる。だが、ようやく取った政次の政権はわずか1ヶ月で幕を閉じる。徳川家康が、近藤康用・鈴木重時・菅沼忠久の井伊谷三人衆を派遣し、井伊谷を奪還させた。政次は敗北、井伊谷から逃げ退くが捕えられ、永禄12年(1569年)に処刑されたという。

TRIVIA

井伊家

豆知識

政次の役職「筆頭家老」は城主の最高のブレイン

武家の家臣団のうち最高地位の役職が「家老」。家老は複数人おり、合議によって政治・経済の補佐・運営を行う。その中で最も地位が高いのが「筆頭家老」である。井伊家の内政・外交両面を担いながら、今川家の支配下にある井伊家の監視役および仲介役を行う重要な役割だ。

小野の姓は歴史ある名門のお家柄！

小野の姓は飛鳥時代より続く、皇別氏族の末裔の名家。有名な人物として遣隋使の小野妹子、能書家の小野道風、文人の小野篁、女流歌人の小野小町がいる。敵か味方かはさておき、小野政次も名門の血が流れる優秀な人材だったと考えられる。

生涯、井伊家に忠義を尽くした小野但馬守の弟・玄蕃

桶狭間の戦いで井伊直盛とともに出陣し戦死したと伝えられている政次の弟・小野玄蕃。井伊家のために戦って討死した玄蕃は、桶狭間の戦死者とともにまつられている。また、井伊直政が徳川家康の小姓となった際に、玄蕃の子である小野朝之は共に出陣したとされ、家康より万福の名を与えられている。小野朝之は、政次が処刑されたあとも生涯井伊家に仕えた。

※小野但馬守は、井伊家筆頭家老・小野和泉守政直の嫡男で、道好とも呼ばれる(諸説あり)。

直虎の最高のブレイン 井伊家の筆頭家老

小野政次(道好)

【おのまさよしく(みちよし)】

井伊家
筆頭家老

今川家と
井伊家の
仲介役

井伊家の
監視役



井伊家を建てた政次殿じゃが、感謝の人生を送るのじゃ

